

平成21年 3月 31日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18402042

研究課題名（和文） お金という文化的道具の修得と東アジアの子ども生活世界：
差の文化心理学の視覚から研究課題名（英文） Mastering Money as Cultural Tool and Life-World of East Asian
Children: From the perspective of “Cultural psychology of difference”

研究代表者

山本 登志哉(YAMAMOTO, Toshiya)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：60221660

研究分野：心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード： お金 東アジア 生活世界 子ども 文化的道具 差の文化心理学

1. 研究計画の概要

子どもの文化社会的な発達の様相を、お小遣いをめぐる親子関係、友達関係に関する意識や行動、お金の使い方についての規範意識や使用の自由度に関する意識、実際の使用範囲といった諸点から、東アジア各地の比較と年齢の比較を行う。またそれらの研究の基盤となる文化理論、分析概念、方法論全般にわたる再検討を行い、「差の文化心理学」の立ち上げをめざす。これらの作業を東アジア地域の研究者による共同作業として行うことを通し、この地域による恒常的な研究者ネットワークの形成も指向する。

2. 研究の進捗状況

上記の諸問題について、実証面ではお金を介した対人関係構造がどのように文化的に成立し、また発達の的に変化するか、という観点から、友達関係に於けるおごりを含む金銭媒介的関係の経験度合いやそれに対する規範的評価の問題、お金の与え方などに現れる、子どもの金銭行動に対する親のコントロールの仕方の問題、そこから見えてくる、子どもの自主的金銭行動の形成と拡大といった、金銭媒介的生活世界の拡大と自立の問題について、子どもへの質問紙データの分析、インタビューの分析が順調に進行し、現時点では日本のデータの基本構造と韓国データとの比較、韓国国内に於ける地域間比較、中国に於ける地域間比較や社会階層間比較、日中韓越の基本項目に関する全体的比較などが行われ、順次公刊されている。

理論面では基本分析概念として文化心理学に於いて重視されている媒介構造の議論をにらみつつ、主体間の相互媒介的關係、対

象を媒介にした主体間関係、さらにその全体を媒介する規範的要素などを統合した「拡張された媒介構造」を提出している。またお金を抽象的で非人格的、中性的な経済的道具としてみるのではなく、具体的な対人関係文脈の中で人間関係を含む生活世界を文化的に成立させていく力を持つ「文化的道具」として概念化し、さらにそれを分析する方法論として、マルチボイスメソッド、マルチメソッドを整備しつつある。

研究者ネットワークについては日中韓越の研究者が恒常的に連絡を取り合い、調査、議論を行う体制がすでに安定して形成されている。

3. 現在までの達成度

理論面の整備は予定を越えて最も進んでおり、海外での発表も二つの Handbook に掲載済み及び予定である。質問紙の分析も順調であり、インタビュー分析は少し遅れ気味、観察データの分析が相対的に遅れており、その活用の仕方について、下記項目「本の作成」の中で調整する予定である。これらのバランスを考え と評価する。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度の課題は親への質問紙を子どもとセットで実施すること、差の文化心理学の基本的な議論を Oxford Handbook of Cultural Psychology に依頼された一章としてまとめること、これまでの子ども質問紙やインタビュー、観察の結果を実証・理論の両面から全体としてまとめる本を作ること、日本や欧米での発表の他に、韓国、中国、ベトナムでも各地の言語で、各地のデータを中心

とした学術論文を作成発表していくことである。

本研究課題による研究期間を終了した後も、蓄積されたデータを多様な角度から分析しつつ、英語での単行本出版を含め、作業が継続される見込みである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

1・呉宣児・サトウタツヤ・高橋登・山本登志哉・竹尾和子・片成男 2008 インタビューにおける<声>と<文化> 「多声性」と「対の構造」に焦点を当てて 共愛学園前橋国際大学論集 No.8 235-245 頁(査読あり)

2・Pian, C., Yamamoto, T., Takahashi, N., Oh, S., Takeo, K., Sato, T. 2006 Understanding Children's Cognition about Pocket Money from Mutual-subjectivity Perspective, Memoirs of Osaka Kyoiku University. IV, Education, psychology, special education and culture Vol.55, (1) 109-127physical (査読なし)

3・呉宣児・山本登志哉・片成男・高橋登・サトウタツヤ・竹尾和子 2006 異文化理解における多声性の方法(マルチボイスメソッド) 子ども同士のおごり合い現象をどう見るかに焦点を当てて 共愛学園前橋国際大学論集, 6, 91-102 (査読あり)

4・竹尾和子・呉宣児・崔順子・片成男・山本登志哉・高橋登・サトウタツヤ・金順子 2005 お金のやりとりから見た子どもの親子関係と友だち関係 ソウル調査から発達研究, 19, (査読あり)

5・Oh Seon-Ah, Pian Chengnan, Yamamoto Toshiya, Takahashi Noboru, Sato Tatsuya, Takeo Kazuko, Choi Soon-Ja, Kim Soon-ja 2005 Money and the Life Worlds of Children in Korea -Examining the Phenomenon of Ogori (Treating) from Cultural Psychological Perspectives- 共愛学園前橋国際大学論集, 5, 73-88, (査読あり)

〔学会発表〕(計 75 件)

1・竹尾和子・山本登志哉・高橋登・サトウタツヤ・呉宣児・片成男 2008 韓国におけるお金をめぐる子どもの生活世界; ソウルと済州島(1) お小遣いのもらい方 第50回日本教育心理学会総会発表論文集(2008年10月12日、学芸大学)

2・山本登志哉・高橋登・サトウタツヤ・呉宣児・片成男・竹尾和子 2008 韓国にお

けるお金をめぐる子どもの生活世界; ソウルと済州島(2) 親子関係・友達関係とお金 第50回日本教育心理学会総会発表論文集(2008年10月12日、学芸大学)

3・Noboru Takahashi 2008 Money for East Asian Children: Cultural Differences and/or Dialogically Generated Meanings Second ISCAR Congress (2008年9月11日、UCSD)

4・Toshiya Yamamoto 2008 Socio-cultural norms emerged in interactions and expanded mediational structure A theoretical viewpoint for analyzing micro-genesis of culture Second ISCAR Congress (2008年9月11日、UCSD)

5・Chengnan Pian 2008 Cultural Meanings of Money are NOT Fixed Ambiguity and Fluctuation about the Cognition of Pocket Money in Chinese Korean Children, Second ISCAR Congress (2008年9月11日、UCSD)

〔図書〕(計 2 件)

1・サトウタツヤ 2009 TEMの発祥とT・E・Mの意味 サトウタツヤ編 TEMではじめる質的研究: 時間とプロセスを扱う研究をめざして 誠心書房 総頁222

2・Yamamoto, T., & Takahashi, N., 2007 Money as a Cultural Tool Mediating Personal Relationships: Child Development of Exchange and Possession Cambridge Handbook of Sociocultural Psychology, 508-523 総頁729

〔その他〕

本研究の一部を為す理論論文(Yamamoto & Takahashi, 2007)に対し、2008年に中国において「朱智賢心理学賞」が与えられた。

また、お小遣いをめぐる親子関係について、ベネッセ教育研究所などから専門的知識や親へのアドバイスなどを求められたり、朝日新聞全国版で紹介されるなど、その成果が一定程度社会的にも認知されるに至っている。

樣式 C-7-2

自己評価報告書